

| | | | |
|----------|--|-----|--|
| 科目 | 国際コミュニケーション(中国語) (Chinese for International Communication) | | |
| 担当教員 | 田島 大輔 非常勤講師 | | |
| 対象学年等 | 機械工学科・4年D組・通年・選択・2単位 (学修単位I) | | |
| 学習・教育目標 | D2(100%) | | |
| 授業の概要と方針 | 現代中国語(標準語)の発音と基礎的文法を、発音・読解・作文の演習を通じて学習する。受講者の教授内容に対する理解をはかる評価対象として、各回講義内での演習、中間・期末試験に加え、随時課外課題への取り組みも重視する。 | | |
| | 到達目標 | 達成度 | 到達目標別の評価方法と基準 |
| 1 | 【D2】現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を習得する。 | | 現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を講義中の演習(発音練習)、課題によって評価する。 |
| 2 | 【D2】現代中国語の漢字(簡体字)の中でも、比較的使用頻度の高いものの書き方を習得する。 | | 現代中国語の漢字(簡体字)の書き方を講義中の演習(短文読解・作文)、課題によって評価する。 |
| 3 | 【D2】現代中国語の簡単な文法知識を習得する。 | | 現代中国語の簡単な文法知識を講義中の演習(短文読解・作文)、課題、中間試験、定期試験および口頭発表によって評価する。 |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 総合評価 | 成績は、試験60% レポート10% 演習(発音、読解、作文)30% として評価する。試験は中間試験、定期試験の平均点を評価対象とする。レポート(課題)の内容は講義中に指定する(複数回)。演習は授業内での口頭発表(暗誦等)、筆記課題(小テスト)を課す(複数回)。試験・レポート・演習の評価を総合し、100点満点60点以上を合格とする。 | | |
| テキスト | 竹島金吾(監修), 尹景春・竹島毅(著)『中国語 はじめの一步』白水社, 2012年 | | |
| 参考書 | 松岡榮志(主幹), 樋口 靖・白井 啓介・代田 智明(著)『クラウン中日辞典 小型版 CD付き』三省堂, 2004年 | | |
| 関連科目 | ドイツ語, 韓国語 | | |
| 履修上の注意事項 | 現代中国語の学習を通じ、中国の文化・社会に対する関心を深める。受講者には講義の予習・演習・復習への自主的な取り組みが求められる。 | | |

授業計画(国際コミュニケーション(中国語))

| | テーマ | 内容(目標・準備など) |
|----|---|---|
| 1 | 講義概要の説明,発音練習(1) | 本講義の方針・目標・内容・評価方法の説明,および同説明に関する質疑応答などの後,中国語の声調母音(単母音,複母音,n/ngを伴う母音)とアクセント(声調)の発声法,表記法(ピンイン)を学習する。 |
| 2 | 発音練習(2) | 中国語の子音の発声法,表記法を学習する。現代中国(中華人民共和国)で公用文字とされている簡略字「簡体字」についても触れる。 |
| 3 | 「是」構文,人称代名詞,指示代名詞 | 述語動詞「是」(AはBである)を用いた構文,「わたし」「あなた」「それ」「これ」「そこ」「ここ」といった各種代名詞を学習する。 |
| 4 | 動詞述語文,所有を表す「有」構文,疑問文における助字「呢」 | 動詞を述語とする構文,「AはBを持つ」「AにはBがある/いる」等の意を表せる「有」を用いた構文,および文末に付せられ疑問の意を表す「呢」の用法を学習する。 |
| 5 | 形容詞述語文 | 形容詞を述語とする構文を学習する。 |
| 6 | 数字,日付時刻の発音・表記法,量詞 | 数字や日付時刻の発音と表記,および「量詞」(助数詞)の用法を学習する。 |
| 7 | 復習 | 前回講義までの学習内容について復習する。 |
| 8 | 中間試験 | 第2回から第7回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。 |
| 9 | 中間試験返却,口頭演習課題の発表 | 中間試験の問題解説の後,中国語短文暗誦課題の発表を行う。課題用短文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。 |
| 10 | 完了を表す「了」,所在を表す「在」,助動詞「想」 | 述語の後ろに置き「完了」を表す助動詞「了」,人・ものが特定の場にあることを表す動詞「在」,および「～したい」の意を表す助動詞「想」の用法を学習する。 |
| 11 | 介詞「在」「離」「从」「到」「跟」「給」 | 「～で」「～から」「～まで」「～と」「～に」などの意を表す各種介詞の用法を学習する。 |
| 12 | 助動詞「得」,経験を表す「過」,「是～的」構文 | 「～しなければならない」の意を表す「得」,動詞の後ろに置かれ過去の経験を表す「過」,および強調構文「是～的」の用法を学習する。肯定形・否定形・疑問形・反復疑問文,量詞/助数詞を学ぶ。 |
| 13 | 助動詞「能」「会」,動詞の重ね方 | 助動詞「会」「能」の用法,同じ動詞を重ねる表現を学習する。 |
| 14 | 総合復習 | 中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。 |
| 15 | 総合復習(予備回) | 第14回での総合復習,その他についての復習,確認,質問に対する回答。 |
| 16 | 定期試験返却,前期学習内容の復習 | 定期試験の問題解説の後,前期学習内容について,復習・確認を行う。 |
| 17 | 結果・程度を表す助詞「得」 | 形容詞・動詞の後に置かれ,結果・程度を表す補語を導く助詞「得」の用法を学習する。 |
| 18 | 動詞の進行を表す「在(～呢)」 | 「～しているところだ」の意を表す「在(～呢)」の用法を学ぶ。 |
| 19 | 「来」「去」を中心とする連動文 | 動詞「来(くる)」「去(いく)」を用いた事例を中心に,連動文を学習する。 |
| 20 | 「還是」を用いた選択疑問文,既習各種疑問文の復習 | 「還是」を用いた選択疑問文(AかBか)の構造を確認後,既習の疑問文についても復習を行う。 |
| 21 | 助詞「比」を用いた比較文 | 助詞「比」を用いた比較文(AはBにくらべて～)を学習する。 |
| 22 | 復習 | 第17回講義以降の学習内容について復習する。 |
| 23 | 中間試験 | 第17回から第21回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。 |
| 24 | 中間試験の解説 | 中間試験の問題,解答の確認を行い,内容について解説する。 |
| 25 | 「的」を用いた名詞の修飾 | 「的」を用いた動詞句・形容詞句による名詞の修飾を学習する。 |
| 26 | 1つの動詞が2つの目的語をとる文,主述句を目的語とする文 | 「AにBを～する」といったような,1つの動詞が2つの目的語をとる文,ならびに主語述語句を目的とする文の用法を学習する。 |
| 27 | 総合復習 | 中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。 |
| 28 | 口頭発表の課題作成 | 受講者が短文暗誦課題を発表する。同課題用作文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。 |
| 29 | 口頭発表 | 通年の授業内最後の課題として,これまでの学習内容を踏まえ,受講者が中国語による口頭発表を行う。 |
| 30 | 総合復習 | 口頭発表の全体講評の後,第27回の総合復習その他について,復習,確認を行い,質問に回答する。 |
| 備考 | 前期中間試験,前期定期試験および後期中間試験を実施する。後期定期試験に代えて,口頭発表を課す。試験以外に随時課題を課す(複数回を予定)。視聴覚教材による授業を行うこともある。 | |